

【007_無敗最速デイトレ講座】一貫した『型』を作るための『検証母数』の集め方

〇〇さん

こんにちは、クロガキ(クロ)です。

【006】までのメールは、もうひとつお確認をして頂けたでしょうか？

なんだかんだで、結構なボリュームの情報量ですので、一気に詰め込もうとせずに
焦らず、少しずつ読み進めて貰えば大丈夫です。

今回のメールは、これまでに伝えてきたテクニカル各論を実践出来るようにする為の
『検証のやり方』についてお伝えしたいと思います。

□

└─ ■ 『検証母数』が、トレードの型の精度に大きく影響する

└──────────────────────────

「母数」という表現をしましたが、早い話が1つでも多くチャートを見ていこうという話です。

ですが当然ながら、目的を明確にせず、ただ漫然とチャートを見ていくだけでは何も身につけません。

『何を知りたいか？』をハッキリさせ、その目的に沿ったチャートの集め方をする必要があります。

実践のトレードを、一定の『型』に沿って行う時に僕らが何を意識すべきかというと

1. どちらの方向に、何処から何処まで攻めるのか？⇒『目線の固定』『空間の把握』
2. 何処で『エントリー』『利確』『損切り』をするのか⇒『短期足のセットアップ』

以上2つの項目を『一貫した視点』で繰り返し行える状態 を作る事です。

『同じサイコロを振る』という表現をしているのは、まさにこれを実践する事なのです。

□

■ では、どうやって『母数』を集めるか？

└──────────────────┘

ここでようやく本題に入ります。前置きが長くてすみません(笑)

検証作業を行う際、僕は目的を2つに分けて行います。大別すると

1. 『長期環境認識』⇒日足(H4足)以上の環境から空間を探す検証
2. エントリーに結びつけるパターンを見つける検証

の2つです。

『目線』『空間把握』『ライン引き』などの基本分析スキルを高めるに「1.」の検証を繰り返し行うというのも、勿論重要なのですが

ここから実際に『最終的なトレードプラン(何処でエントリー、決済するか)』まで結びつけてマルチタイムフレーム分析を行うのは

初学者にとってかなりハードルが高いものになります。

既にやった事がある人は感じた事があると思いますが

長期的な目線が分かったとしても「じゃあ、何処でエントリーするか？」と考えようとすると、そこで手が止まってしまう人が殆どです。

こうになってしまう理由は、分析自体に問題があるのではなく『短期足の型』が定まっておらず
エントリーのプランを立てようがないからです。

そこで、「2.」を目的とした『検証母数集め』をやっていく必要があります。

これからその手順を説明します。

<1>M15足の収縮⇒発散の形を見つける

▼参考:MAの収縮をひたすら探す動画▼

<https://youtu.be/fh5i31A94VE>

以前、ライブ配信で実演した事があるのですが、僕は『目線』を決めたらこの『MAの収縮』が起
こっているチャートを優先して チャート監視の対象 とします。

そして、その動きが出ているポイントを見つけたら

『H1足』『H4足』『日足』と時間足を繰り上げていき、各時間足で 発散して伸びる 方向に向けて
「邪魔になるラインやMAが無いか？」

といった、時間足毎の状況から『目線』を一致させられるかを言語化していきます。

以上の一連の検証を、時間帯・通貨ペア別に、ひたすら繰り返していきます。

ちなみに、検証母数を多く集める事を優先するなら、とりあえず週足・月足の分析は後回しにして
も問題ありません。

最終的に目線の精度を上げるために、後々組み込んでいけるようにしましょう。

<2>集めた『検証母数』から、パターンの絞り込みを行う

『収縮⇒発散』という大枠の条件でチャートを集めていくと

「確かに結果的に伸びているけど、上の時間足を見ると実際にエントリーは難しそう」と感じたり

「H1、H4足で置かれている状況が違う」といったことが当然ながら起こります。

これらをごちゃ混ぜにしたままだと、一定の目線でトレードする事が出来ないので

沢山の母数を集めた中から

『H1(H4, 日)足で、“一定の状況”になっているパターンだけを抽出』して、絞り込んだ検証を行います。

<絞り込みの例(クロが実際やっているルール)>

【H1(若しくはH4)足の20, 40, 50SMA いずれかにG2(グランビル2番)タッチでプルバックを終え、トレンド方向に向かう動き】

▼詳細はMA手法マニュアル参照▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/kurogaki_mamannual_e.pdf

(日足のライン間に十分な空きがあることを併せて確認すること)

他にも

【H1(若しくはH4)足で、急騰・急落の影響で『MAが乖離』しており、乖離したMAに向かってプライスが戻って行く動き】

といった逆張りトレードも応用可能なのですが、最初のアレコレやると混乱してしまうので

まずは、『トレンドを追う』ことに慣れるための検証をひたすらやって行くのがオススメです。

このように、最初は『短期足のセットアップ』から、上の時間足におうかがいを立てる形で

マルチタイムの情報を繋ぐことに慣らすように検証を進めていくと

さほど迷うことなく検証母数を集められます。

集めていくと、「これは微妙だなあ(判断が難しいなあ)」というチャートも出てきますが

最初は気にせずドンドン数を集めましょう。目を慣らす事が最優先です。

数をこなすうちに、自分が『キレイだ!』と思うものを集める『慣れた(=馴染んだ)動作』に変わっていくはずですので

それまでちょっと大変ですが、頑張って取り組んでみてください。

いずれ機会を作って、検証ポイントを探す実演をライブ等でやる事も考えていますので

まずは今回の文章を参考に取り組み、気になる事があれば質問してくださいね。

それでは、長くなりましたが、今回はこの辺で失礼します!

クログキ(クロ)